

特

門子 5  
號 3811  
卷 1

禪

禪

繪  
廿  
紙



昭和  
月  
日  
年  
購  
本

采筆七人會新戲十戲筆

如意山云々川云々

# 書林

於至馬一海ら云々何云々云々

書林 群玉堂壽梓

家内喜多留十二編序

山之れ笑ひ催ふ云々物云々春風も云々

意氣云々吹出云々四方云々死云々青柳

乃糸筋云々刺服筋云々若菜云々

花を願云々笑ふ云々か云々子云々日云々小

松も引云々云々返云々口云々物云々筆に

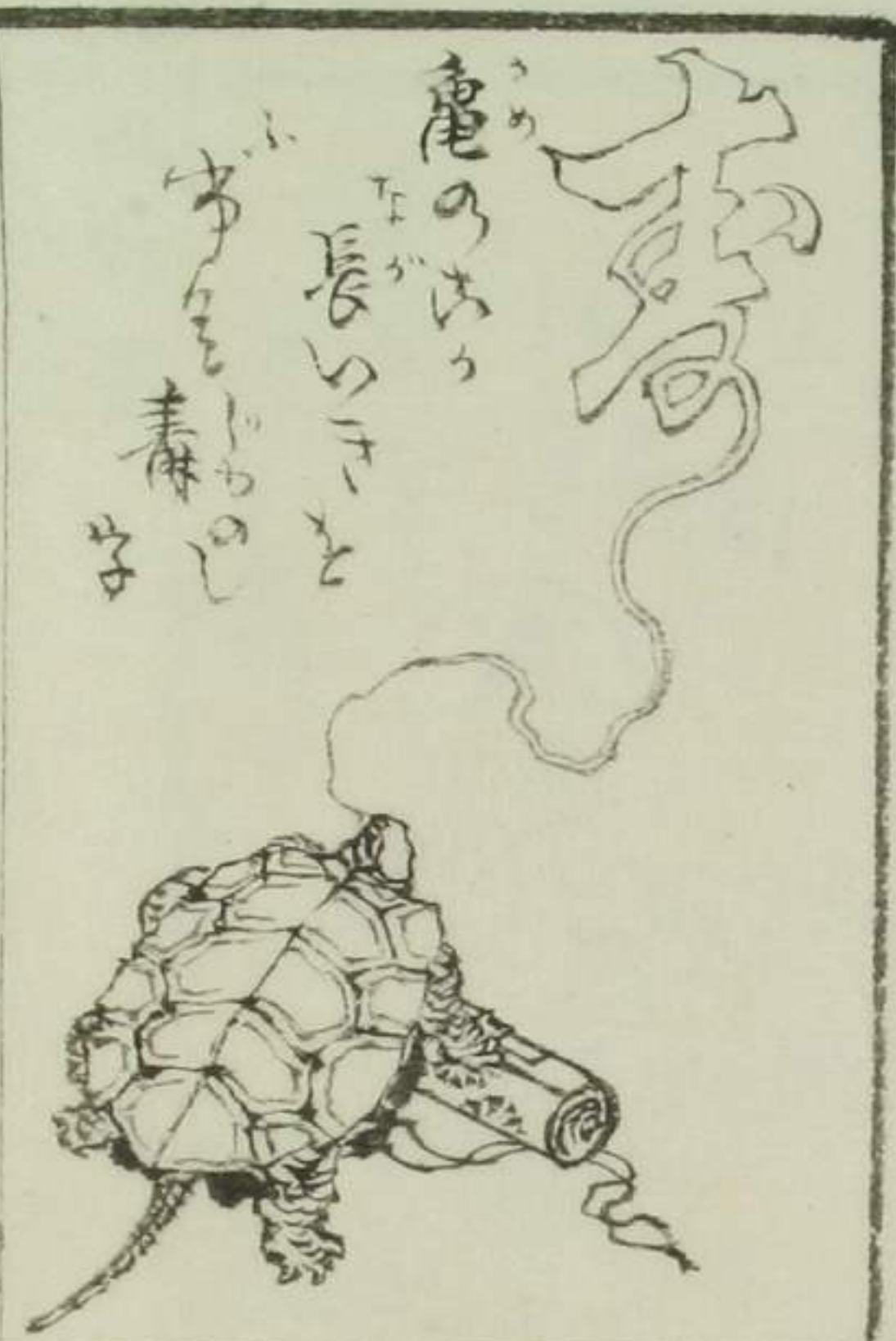
ほ云々啼鶯水云々云々云々蛙







浦嶋  
釣  
杖  
つね



毒  
魔の  
長い  
毒  
字



春  
ま  
写し



つ  
紅  
毛  
流  
袖  
工



湯  
下  
女  
捨  
真  
狐  
鳥  
丸



和  
三  
姫  
長  
伴



配  
本  
賣  
歳  
寄  
と



神  
海  
持  
あ  
き  
と  
ま  
ん







けいせいひれあすひと  
見くねん 後人を  
中ひつ  
余日  
あひまう  
あひまう

チンといふゆ  
あまのうみ  
ふるのん  
春をこ  
ち  
ちとらう  
はる

せん  
好人多き  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ

不動  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ

外  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ

外  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ

あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ

あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ  
あまのうみ

白服

あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた



針本  
様まんの

婿の判

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた



干松場

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた



あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた



雷

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた



あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた



あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた



あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた







寺山性高強縁  
いも加母を元  
進善廿日おきてま



口まき  
茗荷  
外とわ  
云は  
旅



和寄  
浮き  
屋



梅ぼりの  
針  
智



能き  
耳を  
茶  
居たられて  
献



風  
類  
外には  
柳



木下

妙子  
おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



おとす  
おとす  
おとす  
おとす



娘の行く所  
遠く乃  
病を  
うそく



手練かん  
竹  
娘  
あまを



美木割  
はる  
はる



花  
奴の  
あま



懐心  
握持  
撰之全利



整理  
来而自  
仲人



乳母が  
くほ  
て



一巴乃  
加減  
采玉



毛の物  
毛の  
枕



育て  
お  
事  
畢



目  
お  
天の



流水  
お  
お



第十二編

十二



伴作れ  
文字  
忠信の  
まなは



鬼母  
情あり



情あり  
まなは



地あ  
遠か  
向  
裏



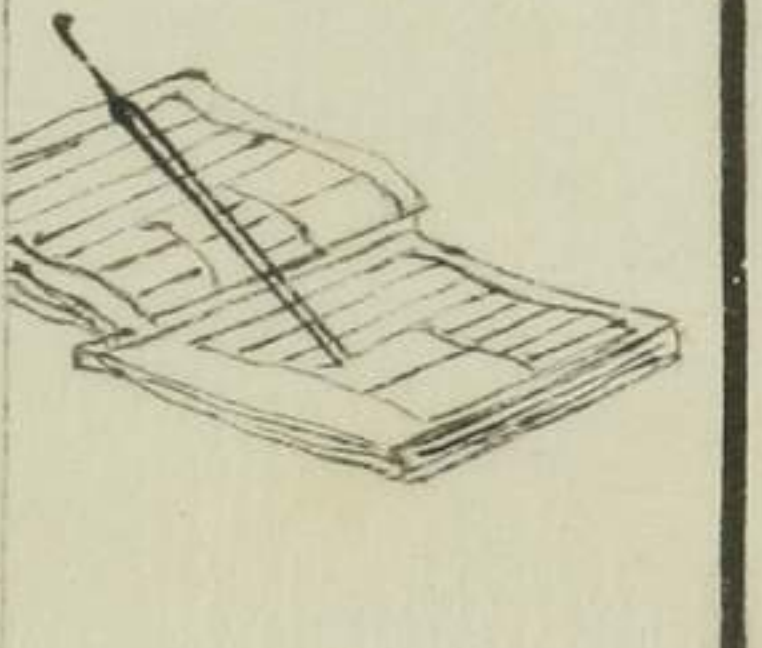
遠か  
極楽の  
西目



君  
父母の  
恩



三世相  
実  
三世相



岩  
口  
あま



口  
子  
胸  
物



初  
三火  
う  
お



天  
引  
お



四  
車  
お





下紐乃  
臺あり  
谷



喜  
由來  
一  
格ひ揚り



火入の  
か  
さ



納  
引  
大



河  
坐  
時



守  
病  
か  
起



泉  
納  
豆



新  
天  
平  
大  
下



重  
儀  
か  
ら  
さ  
ら  
る



多  
好  
子  
女  
好  
子  
女  
好  
子  
女



好  
子  
女  
好  
子  
女  
好  
子  
女



好  
子  
女  
好  
子  
女  
好  
子  
女



痛<sup>い</sup>布<sup>ふ</sup>室<sup>むろ</sup>小<sup>こ</sup>あ  
吉<sup>きち</sup>根<sup>ね</sup>附<sup>つけ</sup>



不<sup>ふ</sup>胃<sup>い</sup>の<sup>の</sup>痛<sup>いた</sup>  
刺<sup>さ</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>痛<sup>いた</sup>  
王<sup>わう</sup>屋<sup>やく</sup>を



狗<sup>いぬ</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>ん  
洋<sup>やう</sup>子<sup>し</sup>の<sup>の</sup>船<sup>ふね</sup>が<sup>が</sup>た<sup>た</sup>た<sup>た</sup>



ち<sup>ち</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>と  
母<sup>はは</sup>親<sup>おや</sup>の<sup>の</sup>命<sup>いのち</sup>り



目<sup>め</sup>眩<sup>くら</sup>し<sup>し</sup>ほ<sup>ほ</sup>と  
天<sup>あま</sup>の<sup>の</sup>川<sup>がは</sup>



伝<sup>でん</sup>茶<sup>ちや</sup>臼<sup>うす</sup>れ  
地<sup>ち</sup>天<sup>てん</sup>泰<sup>たい</sup>



瘦<sup>すく</sup>て  
骨<sup>ほね</sup>が<sup>が</sup>た<sup>た</sup>た<sup>た</sup>



耳<sup>みみ</sup>珠<sup>たま</sup>を<sup>を</sup>や  
良<sup>ら</sup>功<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>浅<sup>あ</sup>



虫<sup>むし</sup>け<sup>け</sup>垢<sup>あか</sup>も  
絶<sup>た</sup>功<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>後<sup>あと</sup>



小<sup>こ</sup>汗<sup>あせ</sup>を<sup>を</sup>投<sup>な</sup>げ  
目<sup>め</sup>を<sup>を</sup>洗<sup>せん</sup>う



身<sup>み</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>る  
動<sup>うご</sup>く<sup>く</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>



耳<sup>みみ</sup>が<sup>が</sup>痛<sup>いた</sup>い  
目<sup>め</sup>を<sup>を</sup>洗<sup>せん</sup>う



文子心ま  
おのふさを被せぬ  
まじし

まてし終る  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ

其の中  
白蓮の花

傾る遠  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ

秋耕を  
揚那から  
ほく

おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ

意匠の  
園に

板場の  
二二けん

志やの  
おまじ

おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ

猪の故着  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ

振袖に  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ  
おのふさを被せぬ

あまの雨ふり  
子小  
白や免て  
トキ、止むり



ゆき舟  
夢切  
又世の光



舟  
鳥  
女  
晴



極  
三  
四



大受  
養子  
孫を  
養み



多  
海  
白



ほ  
て  
て



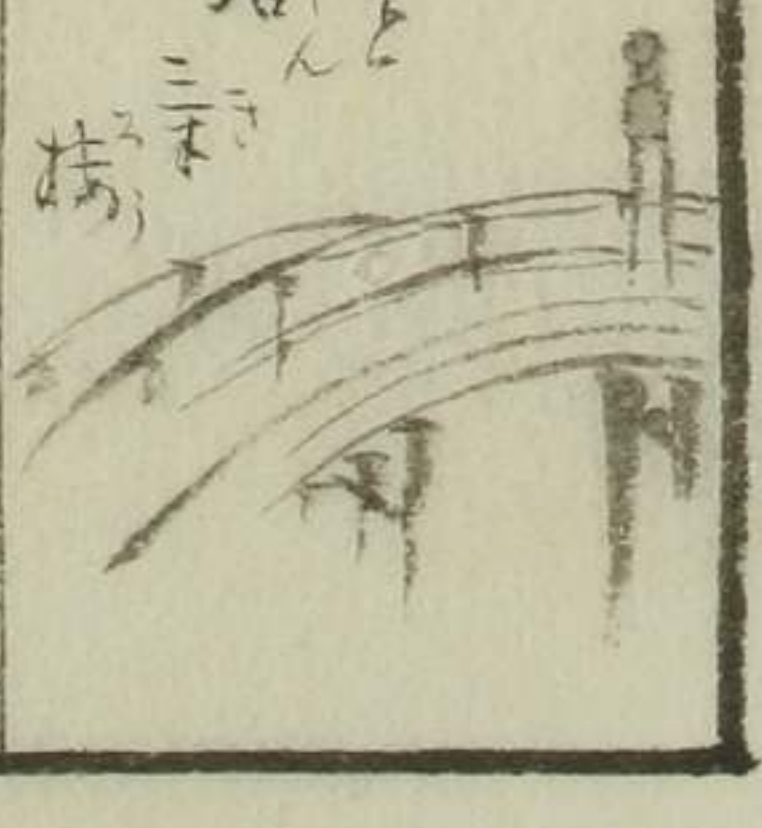
死  
か  
ま



つ  
お  
て



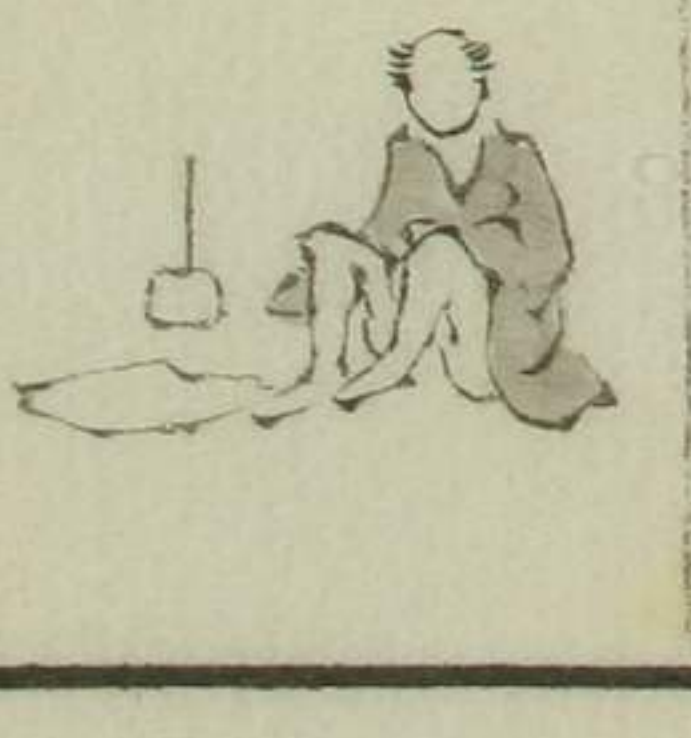
日本橋  
音の  
夕  
拾



江戸  
知  
國  
米  
味



二  
あ  
思





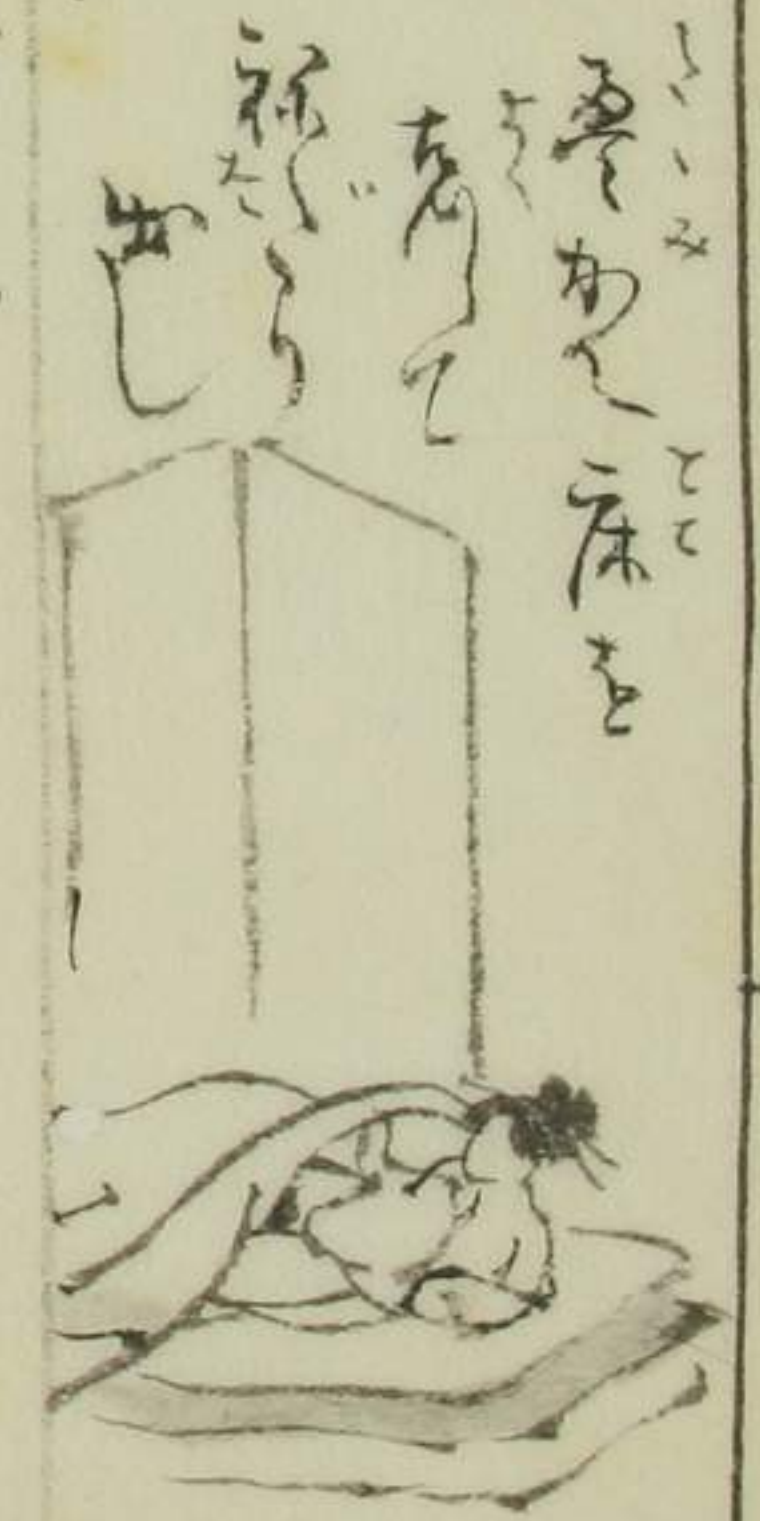
いんま 歎息



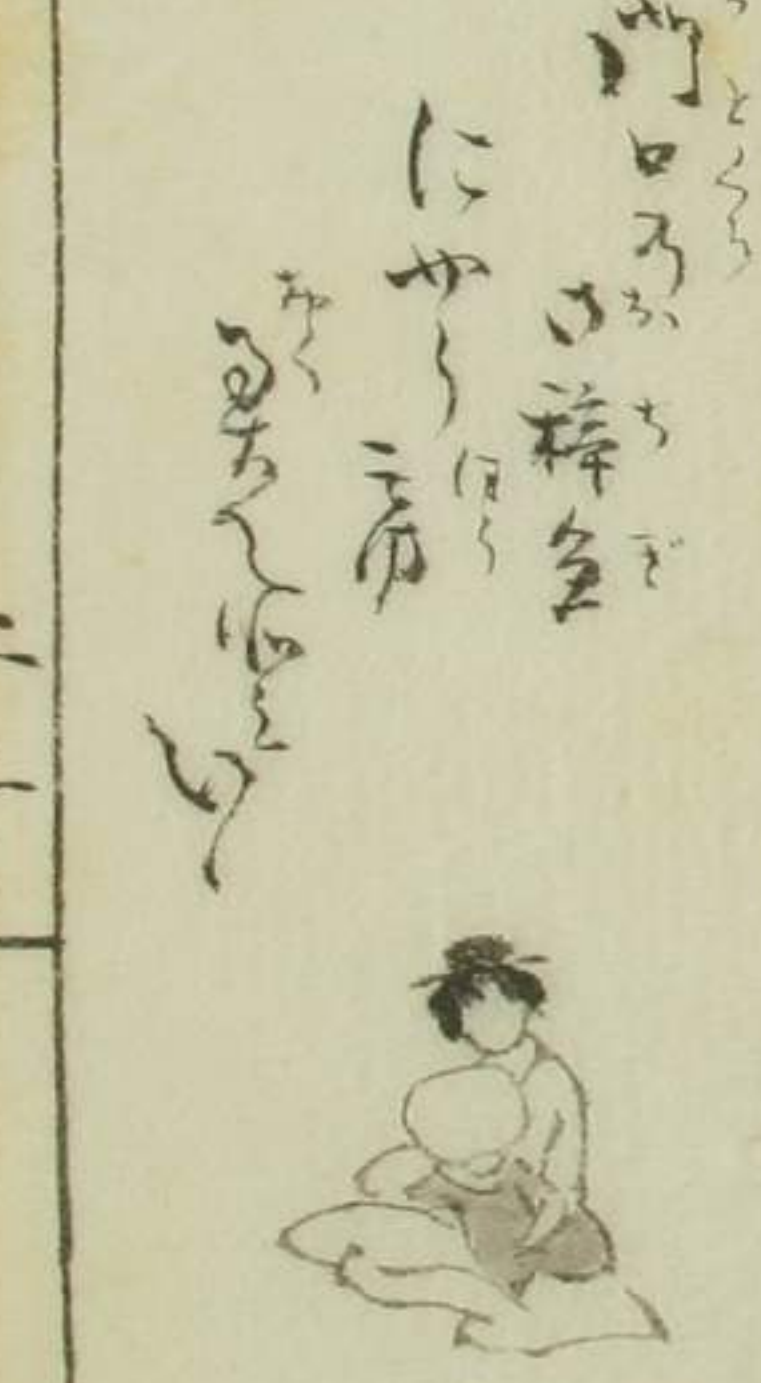
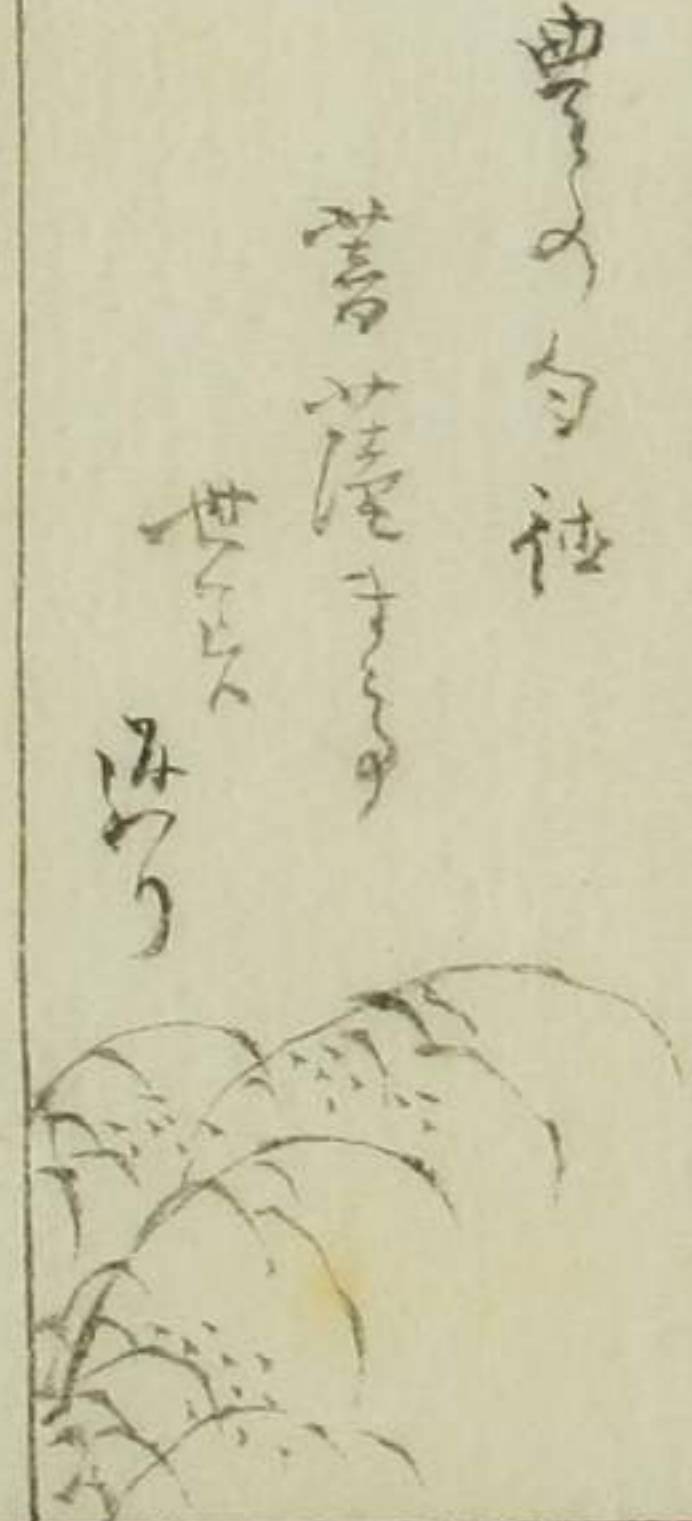
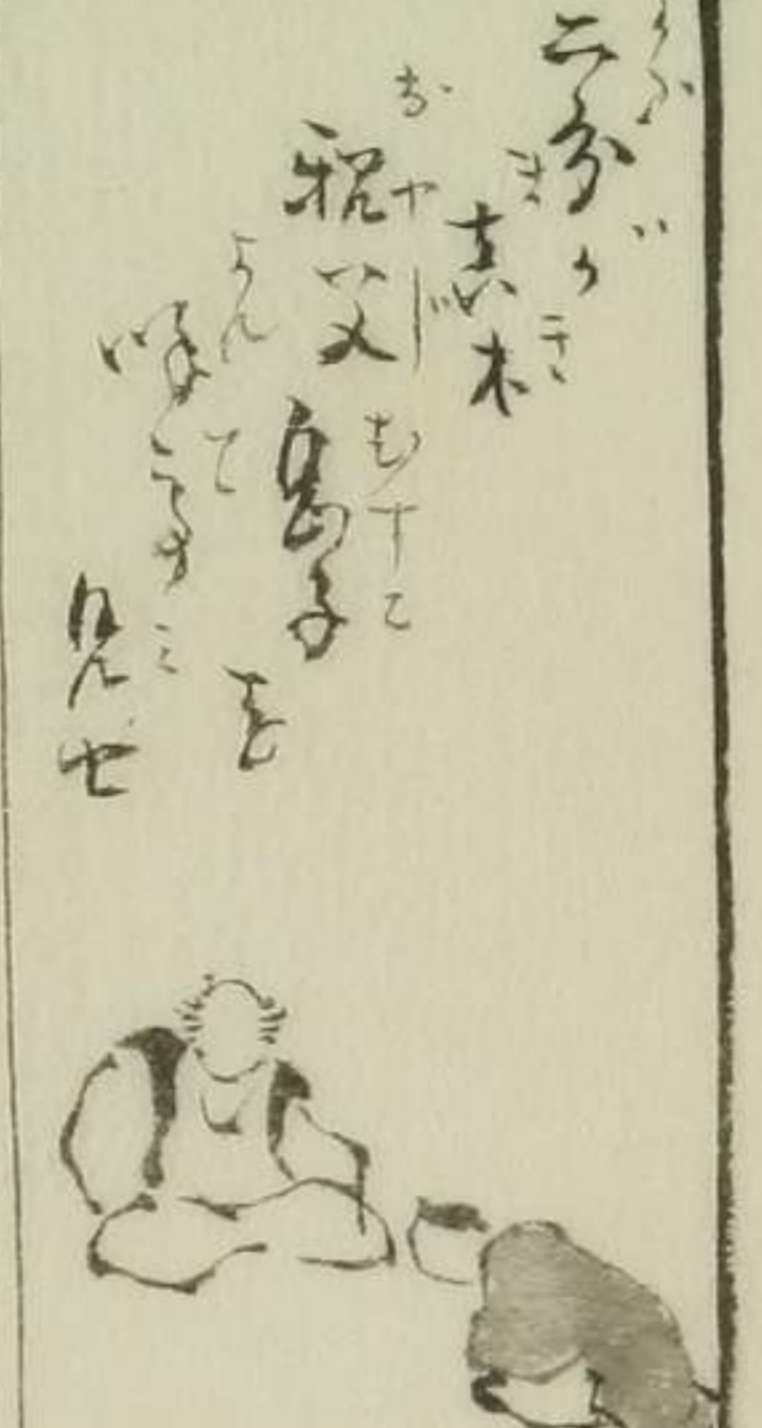
系此地き 平な知て あり



あかぬ 床を



あかぬに 産まじ







恥ぢしを悔  
 よ免れ  
 毎実る  
 此作原  
 うらや  
 娘ま



舟度も通  
 おのあま  
 君を  
 杖  
 安宅の  
 関形



門す引  
 振系  
 ひ  
 日  
 浦



なむいもの  
 生  
 の  
 花  
 つる

